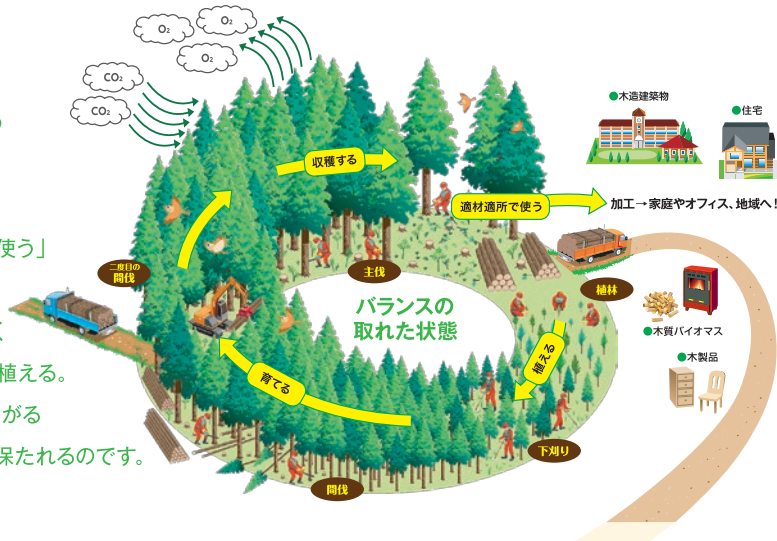


日本の森のバトンは、「使う」時代へとわたりました。

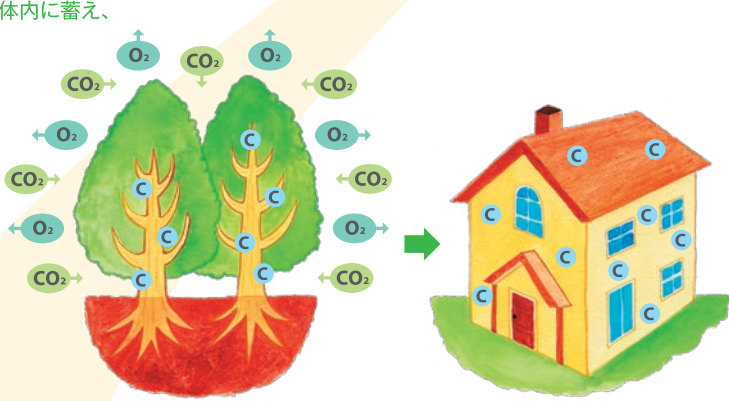
日本の森林資源は年々増え続けています。戦後に植栽された人工林の多くが十分に成長し、「使いどき」となってきました。今後は積極的に「国産材を使う」ことが求められています。成長した木はタイミング良く伐り、利用し、新たに苗木を植える。そうすることで、未来につながる森林の持続的なサイクルが保たれるのです。



木づかいで、森林にも環境にも暮らしにも、いいことが。

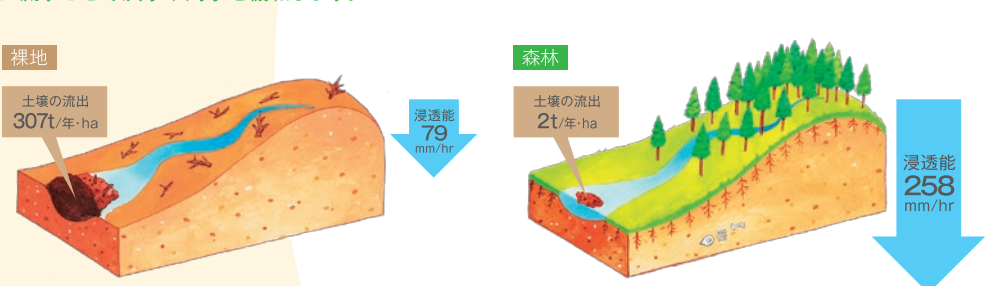
CO₂を吸収して、地球温暖化を防止。

木はCO₂を吸収し炭素(C)として体内に蓄え、その効果は木製品や住宅として利用される間も続きます。そして伐採した跡地に適切に木を植えることで、森林のサイクルが保たれ、地球温暖化防止にもつながるのです。



豊かな水源を確保しながら、洪水や土砂災害を防止。

樹木の根は土壌をつなぎとめる役割を果たし、下草や落ち葉は降雨などによる土壌の流出を抑えてくれます。また、森林の土壌はスポンジのような構造で、蓄えた水をゆっくりと河川に流すことで洪水や濁水を緩和します。



資料/丸山岩三:森林水文、実践林業大学(1970)、村井宏・岩崎勇作:林地の水および土壌保全機能に関する研究(1975)

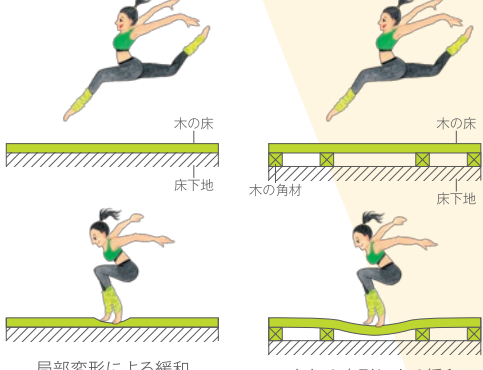
世界の森林で、生物多様性の保全に貢献。

森林は、動物をはじめ多くの生物を育てています。木材需要の約7割を占める輸入材の利用を国産材利用に置き換えていく消費行動が、直接的・間接的にも世界の森林の生物多様性の保全に結びついているのです。



木のやさしさには、たくさんの効果があります。

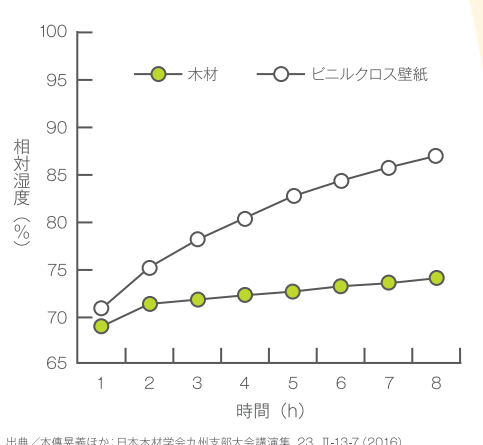
実は「柔らかい」?、木材ならではの性質。



木材は、樹木が生きていたときに作られたパイプ状の細胞の集合体。空隙の多い構造であるため、コンクリートと比べても衝撃を吸収しやすく、たわみ変形による衝撃緩和作用もあるといわれています。こうした性質を利用し、住宅のフローリングや、身体への衝撃の緩和が期待される体育館などの床にも多く使われています。

湿度を調節して快適な空間をつくる。

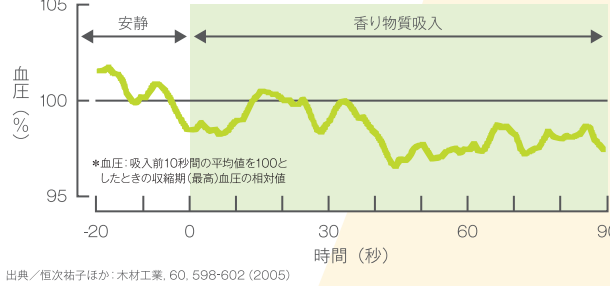
●内装の違いによる睡眠時の室内の湿度変化



木には湿度が高くなると水分を吸収し、低くなると水分を放出して、室内の湿度を一定に保つ働きがあります。睡眠時の室内では、人の呼吸や汗によって湿度が上昇しますが、内装材に木材を用いた部屋では、季節にかかわらずビニルクロス壁紙の部屋よりも湿度の上昇が抑えられることが実験により分かっています。

木の香りで、心も体もリラックス。

●スギチップの香り物質吸入による収縮期血圧の変化



木の香りにはストレスをやわらげ、心と体をリラックスさせる働きがあります。香りが私たちの気分に影響を与えることは経験的に知られていますが、近年では血圧が下がるといった計測データに基づいた、リラックス状態の評価も進み、木の香りによるリラックス効果が明らかになってきました。一息つきたいとき、ヒノキのアロマでリフレッシュ、なんていかがでしょう。

性質の違いを活かして使用される、針葉樹と広葉樹。

日本に生育する樹木には、大きく分けて針葉樹と広葉樹の2種類があります。広葉樹は字のとおり葉が広く、針葉樹は葉が細い木。針葉樹は今からおおよそ3億年前に誕生し、細胞の種類は少なく構造は単純です。一方、広葉樹はそれよりずっと後のおおよそ1億年前に誕生し、細胞の機能が分化して複雑になっています。また針葉樹はまっすぐ伸びる性質があり、住宅の柱や梁などの構造材に多く利用されています。一方、曲がって伸びることも多い広葉樹は、針葉樹に比べて堅く重いので家具やフローリングに適しています。DIYセンターや家具店に行くときは、木の種類にも注目すると興味深いですよ。



快適で、しかも強い。時代を超えて愛される木材の秘密。

日本人は昔から、木を生活に上手に取り入れ、木とともに歩んできました。木造の建物は耐久性や耐震性、耐火性に難があると思われがちですが、必ずしもそうとは言えません。世界最古の木造建築として知られる奈良県の法隆寺は、建てられてから1300年を超えてもなお現存しています。雨漏りや結露などの湿気対策を適切に講じることで、飛躍的に向上する木造建築の耐久性。木材だからこそ、法隆寺のように強く長持ち、かつ安心して使用できる建物を作ることができるのです。また、十分に太い木の柱や梁は、火災が起きても内部まで熱が伝わるのに時間がかかり、完全には燃えにくいので、建物が倒壊しにくいという強みがあります。さらに最近では、耐火性能をもつ木質材料も開発されています。他の建材にはないぬくもりや、住む人の気持ちをやわらげてくれる優しさは、木材の大きな魅力です。昔の日本人がそうであったように、私たちも木を上手に使い、快適な暮らしを送りましょう。



「木づかい」のこと、わかりましたか? さらに詳しく知りたい人はWEBサイトへアクセス!

<http://www.kidukai.com>

「木づかい.com」は「木づかい」についてのあらゆる情報が詰まったポータルサイト。初めての方でも楽しく学べる、さまざまな情報やトピックスが満載です。「木づかい」のことをもっと知りたくなったら、いますぐアクセスしてみましょう。

「木づかい」友の会 会員募集中! [木づかい友の会](#) [検索](#)